

「青少年の記憶に残る経験の場を  
我々大人が作っていかねばいけない。」

毎年11月と3月に  
多摩川河川敷において自然  
観察と清掃活動を行う「クリーン  
多摩川国立のつどい」というイベ  
ントを実施している団体。平成27年  
3月15日に開催された第58回企画  
では、参加者415名、ごみ収集量  
621kgという実績をあげて  
いる。

## 環境保全功労

た ま が わ く に た ち じ っ こ う い い ん か い  
クリーン多摩川国立実行委員会

（実行委員長 丸本 大氏）

「クリーン多摩川国立実行委員会（以下「実行委員会」）が始まった経緯について教えてください。」

元々立川に「クリーン多摩川実行委員会」という会があって、応援に行っていたんです。

何度か参加してる内、国立にだって多摩川が流れているのだから国立でもやろうとなり、「多摩川清掃協議会」を結成。その後数回の活動を経て規模を広げ、今の実行委員会となりました。

「活動の意図について教えてください。」

実行委員会結成当時より、青少年育成の場とすることを当団体の名目の一つとしています。清掃活動をする事で、自分たちはこの環境で育ったという印象が強く芽生える。そういう経験ができる機会を大人が支援して作らねばと思っています。

「活動を永年継続するにあたり工夫されたことについて教えてください。」

多摩川での活動なのだから、多摩川の水を使った企画を実施しようと

いう話になり、水質調査の企画が提案されました。その他にも、野鳥や野草の観察が企画されて。そういうしたらおなかもすくだらうから、軽食もやろうとアイディアが出ると、

加盟団体にいたうどん屋さんや協力に名乗り出てくれて。

協力してくれている方々のアイデアや行動力に支えられて、活動内容を肉厚なものにしていくことができたと思っています。

「活動において苦労された点等があれば教えてください。」

おかげさまで参加者が増えてきているところですが、そうすると人数把握が難しくなりました。急遽参加されたいという方を無下に断ることはできませんが、軽食の数が足りなくならないよう手配するのは大変です。

「30周年記念事業として「まと火」を企画された経緯とは何でしょうか。」

たまたま秋田県合川町で児童交流をされていた方の提案を受け、ある年の春に「まと火」の視察に行ったのです。すごく感銘を受け、国立で

もすぐに企画しようとなりました。行政や地域の皆様のご協力を受け、平成27年の記念事業では無事に火が上がり、また来場者も二千近くと盛況いただき、大変感謝しています。

火を起こす企画ということでリスクもありますから、続けていくには色々な検討が必要です。（平成28年には第2回国立まと火が実施されました。）

「これからの実行委員会の展望について教えてください。」

これからも、青少年の記憶に残る経験の場を我々大人が作っていかねばいけないと思っています。

当団体の活動に参加した児童たちの作文をクリーン多摩川30周年の記念誌に掲載しているのですが、皆案しかったという感想を綴ってくれています。そういう経験を絶やさぬよう、できる限り続けていきたいです。

また、国立市民の中でも、多摩川に行ったことがないという人も沢山います。多摩川という素晴らしい環境を知ってほしいという気持ちもありますので、より市民の皆様に関心を持ってもらえるようなアイディアを考えていきたいです。